

シニアのゲンキで マチが輝く!! 😊

<<少子高齢化社会のなか、高齢者はもとより、これから年齢を重ねていくすべての方々が、豊富な経験や技術を活かし、生涯を通じて仕事や地域活動、生涯学習・スポーツなど、さまざまな分野でイキイキと活躍していただける社会(生涯現役社会)づくりが望まれています。お元気な高齢者がたくさんいらっしゃることで、活気にあふれる地域社会となっていきます。そこで、おゲンキなシニア世代の方々に、シリーズでご登場いただきます。

人との関わりとつながり

これからの地域福祉や安心安全な地域社会ということ考えると、国や地方自治体による推進・支援が必要であることはもちろんのこと、市民一人ひとりや家族による自助の取り組みや、地域でのたすけ合いが基本となることは言うまでもありません。中でも特に、住民の側からの自主的な活動である自治会、町内会などの地縁的なつながりによる活動が大切なものとなります。

今回は、そうした自治会活動を通して地域福祉の推進に活躍されている、村上義雄さんにお話を伺いました。

“会社を退職後しばらくは、妻がやっている点訳活動ボランティアの手伝いをしていましたが、外に出てみると、サラリーマン時代とは打って変わって、人と関わる機会が少なく、地元の自治会や団地に同じくらいの年代の人がいるにも関わらず、特に密接なつながりというのもない。これから先の人生を過ごしていくには、これではもの足りないなと感じ、第二の人生をより充実したものにしたいと考えていたんです。”

村上さんにとってその契機は、熊毛自由が丘地区に連合自治会が創設され、自治会福祉部長に就任されたことに始まりました。



第二の人生をより充実したものに

熊毛自由が丘連合自治会
福祉部長 村上義雄さん(64)
Yoshio Murakami

楽しい生きがいのある生活

“平成18年4月に、自由が丘地区に連合自治会ができて、自治会の福祉部長になったんです。これはたいへんだと思うと同時に、人と関わること、つながることを通して、自分自身の第二の人生づくりにつながっていくという期待感がありました。まず、福祉員さん方を連合自治会内で組織化させていただいて、福祉員さんが個々に活動されるばかりでなく、地域の民生委員児童委員さんと共に会合を定期的を開催し、地域の福祉課題の検討、解決に取り組んでいただけるようにしました。また、地域内の集会所が改築されたのを機に、高齢者の方が日々の生活の中で、生きがいの場、気軽に立ち寄れる場として活用していただける方法を検討し、趣味の同好会を立ち上げて友好・親睦の場として利用していただくことを呼びかけています。それから、児童の登下校時の安全確保のために、通学路の草刈や清掃なども行

いたいですね。”

“サラリーマン時代、台湾に駐在していた時のことですが、現地の高齢者が早朝の暗いうちから広場に集まってきて、各グループでウォーキングやジョギング、太極拳やラジオ体操などをして、自分の健康の維持管理に努める姿をよく見かけました。高齢者の人たち自身に、健康管理意識が非常に高いんですね。自由が丘でも、こうした健康管理活動を地域の高齢者の生きがいづくりの一環として取り入れることができたり、地域内でおたがいが知り合い、つながりをより活発化して、年齢を重ねても地域で楽しく生きがいをもって生活していけたらいいですね。”と、夢が広がる村上さんです。

今日の少子高齢社会での地域課題の解決に向けて、団塊の世代のパワーをボランティア・市民活動につなげられれば、地域にとって大きな力となることを、村上さんのお話から再認識させていただきました。